

指導者の感想 〈たんぼコース〉

佐伯小学校第5学年総合学習 チャレンジ！ お米 5

佐伯町シルバー人材センター 久永 幹雄

このプロジェクトに補助指導員として参加させていただいて私なりに感じた事を少し書いてみました。

まず現代の農業は機械化され農薬、化学肥料と
いかに省力化して収量を上げるかと日々議論、研
究がされ、私自身もそんな現状にどっぷりつかっ
て、手作りの米作りは遠い昔の事に思える今日、
はたして5年生の子供たちにどのようにして興味
を持たせこのプロジェクトを成功させることがで
きるか？ 不安で頭の中がいっぱいでした。

でも、6月6日の田植えを皮切りに7月1日の草
取り、続いて7月17日にははせ肥えと、暑さやあ
るときは小雨のなかで真剣に話を聞き泥にまみれ
て作業する子供たち、こんな機会にいろんな知識
を少しでもと自然保護センターの森先生も一生懸
命に除草剤等で激減した水中生物の解説。実際に
ドジョウやイモリを手にしての説明は興味深く昔
の手作業米作りを連想させ、大きな効果があった
と感じました。

そして農業には無縁だっただろうと思われる担
任の小川先生は泥んこになりながら子供と一体に
なって目的達成に情熱をぶっつける、その姿を見
るにつけ教師って大変だと今更頭の下がる思いで
いっぱいでした。



はでかけ (2002.10.21)

さて、今年の夏は十分な日照に恵まれ稲は順調
に育ち、猪害も防護柵設置により回避でき刈り取
り間もないある日、研究授業にゲストティーチャ
ーとして招かれ子供たちの質問にたじたじしなが
ら応え何とかその任を果たせたかな？、稲刈りも
無事に終わり我々も減多にすることが無くなった
「はでかけ」は子供たちにもインパクトがあった
ことと思います。

そして出来た稲藁で御正月用の御飾りを子供た
ちと作る機会にも恵まれ、さいごは次の稲作の為
の堆肥作り（落ち葉かき）をして焼き芋を食べな
がら最後のまとめをして締めくくる。

このプロジェクトを成功させた森、小川両先生
そして陰でこれを支えたスタッフに拍手を送りま
す。

私こと72才の高齢で子供たちに古き良き時代の
農業、手づくりの稲作りを語り伝えることが出来
たこと有り難く感謝します。

小雨の日 重い蓑笠を着て
盛り上げて呉れた彼

二人であい鴨姉妹を演じて
感心させてくれた彼女達

5年生の皆さん健全に成長してください

そしていつかまた会えるといいなあ～

(平成15年1月13日記)

担当者の感想〈たんぼコース〉

「たんぼ」のプログラムを終えて

自然保護センター 森 生枝

3者の協働

今回の試みは、センターの自然観察会と小学校の総合学習のカリキュラムとがタイアップする形で行なわれた。

センターは平成6年度から8年間、センター内に残るたんぼで自然観察会としてたんぼの行事を行なってきた。一方小学校は、平成14年度から始まった総合学習の一環として、センターの企画に参加した。

今回センターが用意したメニューは、田植え、草とり、はせごえ、稲刈り、落ち葉かきの5回(5日)であったが、小学校ではこれ以外に、研究授業、しめなわづくり、お米パーティなどを実施したとのことである。

今回のタイアップの特徴は、センターと小学校の2者だけではなく、地元佐伯町のシルバー人材センター(以下、シルバーセンター)の方々が必要な役割を担ってくださったことである。

センターでは以前から草刈りなどのフィールド管理の多くを地元のシルバーセンターの方々に依頼してきた経緯がある。また、たんぼや山の作業を取り入れた行事の際には、参加者への指導も担っていただいていた。そのような中で、今回の企画は行われた。

小学校で行なわれた米作りについての研究授業および12月のしめなわづくりでは、シルバーセンターの久永幹雄先生が講師として出向かれたと聞く。センターでのフィールド管理や現地指導員としての指導に、久永先生は今までも大きく貢献してくださった方であるが、今回はさらに、センターと小学校との共通の指導者として活躍してくださった。小学校としては地元の方との交流を非常に楽しみにしておられ、今回の企画を通じて、小学校、シルバーセンター、および当センターの良い関係ができあがったことはすばらしい成果だと考えている。

手作業のたんぼ作業の中には、すばらしいものが隠されている

子供たちは久永先生の縄のないの見事に歓声をあげ、理屈抜きに「すごいなあ」と感じたようだ。まさに、たんぼや山の作業で鍛え抜かれた体や精神に対する言葉だろう。

テーマの発展性

今回センターでは5回分のメニューを用意したが、いくつもの発展の要素を持っている。たんぼの作業に注目すれば、左記の5つの他にもかつてセンターで、田ごしらえ(5月)、ぬり田(8月)、泥あげ(10月)の行事を行なったことがある。生きものの成長に注目すれば、例えばトノサマガエルの卵(5月)から子がえる(7月~8月)までを観察するなどの企画も考えられる。7月中旬頃のたんぼでは様々な成長段階のおたまじゃくしが一度に見られ、非常に興味深い。とりもなおさず、トノサマガエルは県内でも激減した生きものの一つとなっている。生きものの保全の観点からも、同一の場所でその成長を追っていくことは、意義深いことだと考えている。

たんぼの生きもの

作業が一段落すると、しばらくの間、自由時間とした。手網と容器を2人につずつ準備した。子どもたちは適宜、みぞの生きものをさがしていた。担当者としては、素掘りのみぞ(この地方では「やねみぞ」と呼ぶ)、石積み、あぜなど、昔ながらの山間のたんぼのつくりを、生きものをさがしながらじっくり見てもらいたいと願った。裸足であぜを歩き回り、トノサマガエルを追いかけ、ドジョウやイモリに触れて、彼らがどのような場所にすんでいるのか、彼らが生き延びてきたたんぼとはどのようなところなのか、とにかく肌で知っておいてほしいと願った。

最後に、本行事の実施にあたり、佐伯町シルバー人材センターの皆様、佐伯小学校の関係者の皆様、ならびにセンターボランティアの皆様には深いご理解とご厚意をいただきました。あらためて感謝の意を表します。

たんぼの維持管理

たんぼの通常の管理についても、久永幹雄先生および中家堅先生をはじめ佐伯町シルバー人材センターの方々に受け持っていただきました。平成14年度の「稲作の一年概略」は次のとおりでした。この記述は久永先生、中家先生にお願いしました。

稲作の一年概略（平成14年度）

1月15日	荒起こし（ハンドトラクター）	
5月9日	苗代の準備	
5月10日	粃まき（箱苗）	
	粃まき後（約1ヶ月間水やり等，育苗管理）	
5月10日	畦草刈り	
5月15日	二番耕起	
5月20日	畦草刈り	
5月25日	三番耕起	
6月2日	代かき	
6月6日	田植え	児童が
7月1日	草とり（除草機）	児童が
7月10日	畦草刈り	
7月17日	草とり，はせごえ	児童が
8月5日	畦草刈り	
	土用干し 約1週間	
8月15日	稗切り	
8月23日	猪防護柵設置（波トタンで）	
9月5日	畦草刈り	
10月3日	畦草刈り	
10月5日	稲刈りに備え水を抜く	
10月21日	稲刈り	児童が
	はで干し（約2週間）	
11月6日	脱穀（動力脱穀機で）	
	粃すり（粃すり機で）	
1月9日	たきもの準備（翌日用）	
1月10日	堆肥づくりの落ち葉かき	児童が

指導者の感想 〈炭焼きコース〉〈しいたけコース〉

総合学習に参加して

自然保護センターボランティア 高野 佳郎

私は、子どもたちと一緒に何らかの活動や作業をしたいという気持ちが強かったので、この活動に参加させていただきました。したがって毎回の活動日が来るのがうれしくて待ち遠しく感じていました。自分も小学6年生のころ兄と二人で立木を切り倒し、運んで玉伐りし、なたで割って窯に詰め、炭を焼くという作業をしたことがあるので、それらのことをなつかしく思い出しながら子どもたちと作業しました。

現在の子どもたちは、さまざまな体験ができないという社会状況の中で、育たざるを得ないという環境下にあるわけですが、新しく導入された総合学習のおかげで、このような試みがなされることは大変すばらしいことです。野外において自然の事物、現象に身体ごとぶつかっていく活動からは、人工環境の中で、人が計画し、意図したものを学ぶという活動に比べて何倍もの物事を学び身につけるのです。なぜなら、自然の中には人が予想さえできなかった多くの刺激があるからです。

子どもたちとの活動の中では、子どもがいじけることなく、生き生きと積極的に活動するように支援することに心掛けました。

はじめはびくびくしながらノコを使っていた子が、しばらくするとおもしろそうに進んでノコを使うようになる、そういう姿をみて、本当にうれしく思いました。

この活動の中で、友達のすばらしい面を発見して“うわー〇〇さん、すごいんだー”という声を何度となく聞きました。いやだと言って逃げる子はおらず、喜々として作業を楽しむ子がほとんどでした。

私としても、本当に楽しくよい思いをさせていただきました。ありがとうございました。



佐伯小6年 炭焼き「たきものづくり」
(2002.11.13)



山田小4年 炭焼き「窯だし」(2002.11.25)



佐伯小4年 しいたけ「コマ打ち」(2003.1.15)

担当者の感想 〈炭焼きコース〉〈しいたけコース〉

総合学習のプログラムを終えて

自然保護センター 協本 浩

今回、初めて「炭焼き」と「しいたけ」の総合学習をセンターで実施した。「炭焼き」は山田小学校4年生、佐伯小学校6年生が参加し、「しいたけ」は佐伯小学校4年生が参加した。これら3つのプログラムが大きな事故もなく無事に終了できたのは、中家堅先生をはじめとする地元佐伯町のシルバーセンターの方々やセンターのボランティアの方々の献身的なご尽力によるところが大きかった。また、両学校からいただいたご協力も忘れてはならない。

こうした恵まれた環境の中で行われた総合学習であったわけだが、来年へつなげるためにも記憶の薄れないうちに幾つか書き留めておきたい。

- 町のバスが利用できたことは、計画した時間通りに学習を進めるためにも、また、行き帰りの安全のためにも非常によかった。
- 大勢のシルバーの方にきていただいたので、非常によく目が行き届き、きめの細かい指導ができた。このことはけがの防止にもつながった。
- 核家族の多い現在、お年寄りとの交流は子どもの健全な成長を願ううえで欠かせないものであるが、この学習を進める中で、随所によい傾向が見られた。
- 子どもの活動時間はおよそ1時間30分弱であったが、遊ぶ子どもがほとんどいなかった。作業を通して助け合う気持ちもより一層育ったのではないか。

- 一つのプログラムを実施することで、多様な知識や体験を得ることができる。今回も、自然に触れることを目標の一つに置いたが、実際には時間的な事や季節的な事などで十分にはできなかった。
- 昔の生活、遊び、行事など地域の文化について休憩を兼ねてお年寄りから話を聞く時間を設けたらどうか。意義あることと思うが。
- この実践を通して体験学習の重要性をあらためて感じた。子どもはこれらの体験を楽しいと感じ、自ら進んで取り組んだ。その結果、技術の習得は思ったよりはやかった。また、感謝の心や助け合う心なども短い時間の中ではあったがそれなりに育ったと思われ、確かな手ごたえを感じた。



佐伯小6年 炭焼き (2002.12.19)
自分たちで焼いた炭で「焼きいも」をしました。

各プログラムでご指導いただいたシルバーセンター及びボランティアの人数は次のようであった。

プログラム	対象	シルバー (人)	ボランティア (人)	計 (人)
炭 焼 き	佐伯小学校6年生	26	10	36
しいたけ	佐伯小学校4年生	25	8	33
炭 焼 き	山田小学校4年生	25	7	32
諸 準 備		20	0	20
計		96	25	121